

2010年5月10日

各位

オリックス株式会社
(コード番号:8591)

2010年3月期連結決算(2009年4月1日~2010年3月31日)
~当期純利益は前期比72%増~

オリックスグループは、金融危機に端を発する世界的な景気停滞の中、事業と資金調達の分散が功を奏し、当期純利益は期初見通しを25%以上上回ることができました。

同時に、「企業体質の強化」と「事業の再構築」により、ディレバレッジを進めバランスシートを大幅に圧縮した結果、営業収益は前期比11%の減少となりましたが、「海外事業部門」が利益を牽引したこともあり、税引前当期純利益は前期比6倍強の556億円、当期純利益は同72%増の378億円となりました。

主な経営指標の推移

	2009年3月期	2010年3月期	増減率
営業収益	10,535億円	9,328億円	11%
税引前当期純利益	87億円	556億円	540%
当期純利益 (1)	219億円	378億円	72%

	2009年3月末	2010年3月末	増減率
総資産	83,697億円	77,398億円	8%
株主資本	11,675億円	12,987億円	11%
株主資本比率	13.9%	16.8%	-

(1) 「当期純利益」は、決算短信などの財務諸表に記載している「当社株主に帰属する当期純利益」と同じ。

連結決算のポイント

	主要項目	期初見通し	2010年3月期	成果
1	当期純利益 (1)	300億円	378億円	上方修正
2	DE レシオ (2)	4倍以下	3.4倍	達成
3	資産の圧縮 (3)	4,327億円	7,488億円	達成
4	不動産関連資産の圧縮	2,912億円	3,701億円	達成

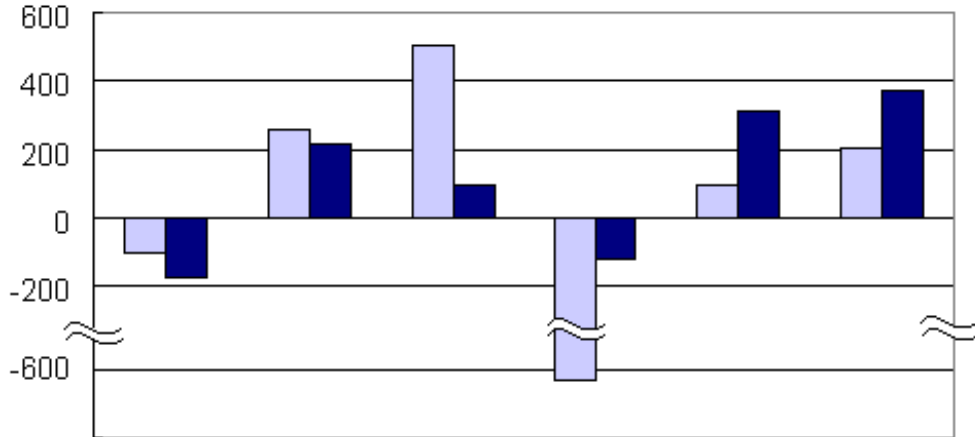
(2) オリックス信託銀行の預金を除く。

(3) セグメント資産合計。

2010年3月期の成果、2011年3月期の事業戦略・方針および業績見通し（セグメント別）

<セグメント利益>

（単位：億円）



	法人金融サービス	メンテナンスリース	不動産	投資銀行	リテール	海外
2010/3期	176	217	94	120	311	371
2009/3期	105	256	505	634	96	201

【法人金融サービス事業部門】

（融資、リース、金融商品販売などの手数料ビジネス、環境関連ビジネス）

2010年3月期の成果

- 不動産関連融資を中心に資産を圧縮し、資産の健全性は大きく改善。不良債権の新規発生はピークアウトしました。

2011年3月期の事業戦略・方針および業績見通し

- 「金融＋サービス」の拡大を図ります。グループ連携の強化による顧客基盤の拡大、専門性の活用による業種別ニーズの深掘りとビジネス機会の発掘を推進します。債権管理を引き続き強化する一方、優良資産の積み上げを行います。
- 貸倒引当金繰入額の減少と、手数料収入や優良資産の積み上げにより黒字化の見込みです。

【メンテナンスリース事業部門】

（自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、測定機器・情報関連機器などのレンタルおよびリース）

2010年3月期の成果

- オリックス自動車、オリックス・レンテックともに高い専門性にに基づき、収益性は低下したものの、厳しい事業環境下においても健闘しました。

2011年3月期の事業戦略・方針および業績見通し

- グループ横断的に横串施策を推進、更なる拡大を目指します。
- オリックス自動車における「総合車両管理サービス」、オリックス・レンテックにおける「IT資産管理サービス」を積極推進、アジア市場も開拓していきます。
- 資産、利益共に拡大を見込んでいます。

【不動産事業部門】

(オフィスビル・商業施設などの開発・賃貸、マンション分譲、ホテル・ゴルフ場・研修所などの運営、高齢者向け住宅の開発・運営、不動産投資法人(REIT)の資産運用・管理、不動産投資顧問)

2010年3月期の成果

- ・ 賃貸事業の高いリーシング力により、物件の利回りを維持。不動産市況低迷下においても売却益を確保しました。

2011年3月期の事業戦略・方針および業績見通し

- ・ 賃貸資産は、小口分散というポートフォリオ上の特色と高いリーシング力を生かし、稼働率および利回りの向上を目指します。
- ・ 多様な出口戦略を模索し、資産の回転を促進します。
- ・ 大型プロジェクトの推進により新たな価値創造を図ります。
- ・ 不安定な市況下ではあるものの、前期並の利益を見通します。

【投資銀行事業部門】

(不動産ファイナンス、商業用不動産担保ローンの証券化、サービサー(債権回収)、プリンシパル・インベストメント、M&Aアドバイザー、ベンチャーキャピタル、証券)

2010年3月期の成果

- ・ ノンリコースローンは残高圧縮。大口投資先からの減損額は縮小しました。

2011年3月期の事業戦略・方針および業績見通し

- ・ 高格付、高シェアのサービサー機能を活用し、CMBS関連の収益機会の獲得や再生事業の強化を目指します。
- ・ 事業投資は、案件選別を進めつつ積極的に推進していきます。
- ・ 大口投資先からの大規模な損失リスクは極小化されており黒字化を見込んでいます。

【リテール事業部門】

(生命保険、信託銀行、カードローン、オンライン証券)

2010年3月期の成果

- ・ 生命保険は、保険関連利益、運用収益共に大きく伸長しました。
- ・ 信託銀行は着実に資産を積み上げ、融資先の多様化も進展しています。

2011年3月期の事業戦略・方針および業績見通し

- ・ 生命保険事業は、特徴ある保障型商品の開発と、代理店の充実により更に拡大していきます。
- ・ 信託銀行事業は融資の拡充を継続します。
- ・ 生命保険事業は、成長期に入っており、更に利益を拡大させていきます。
- ・ 当期のカードローン事業、証券業の株式売却益を除くと、利益は増益を見込んでいます。

【海外事業部門】

(リース、融資、債券投資、投資銀行、不動産関連、船舶・航空機関連)

2010年3月期の成果

- ・ アジアはリース事業の利益が堅調。事業投資の売却益もあり増益。米国も高い専門性が蓄積されており、金融危機下においても増益となりました。

2011年3月期の事業戦略・方針および業績見通し

- ・ 米国は、培ってきた高い専門性をベースに「金融+サービス」の拡大に加え、今後はM&Aも含めた積極的な業容の拡大を図ります。

- ・ アジア全体の成長を取り込みます。特に中国は大連市に設立した「中国本社」を中心に、重点的に高収益案件を発掘していきます。
- ・ 海外セグメント全体の利益は高い利益水準を維持していきます。

これらの事業戦略・方針に基づき事業を推進することで2011年3月期の当期純利益は570億円(当期比51%増)を予想しています。また、全セグメントの黒字化を目指します。

今後ともオリックスグループは、事業ポートフォリオの分散による事業展開を軸としながら、“「金融」から「金融+サービス」へ”、“アジアにおける事業拡大”の2つを経営戦略の中心とし、財務の健全性やリスクマネジメントを総合的に一層深化させることで、健全な業容と着実な成長を実現していきます。

詳細は、当社ホームページにて掲載の決算短信および決算補足資料をご覧ください。

URL : http://www.orix.co.jp/grp/ir_j/data/

以上

< 本件に関するお問い合わせ先 >

広報部 池田・堀井 / 経営計画室 IR 担当 富永・竹村

TEL : 03-5419-5102